

■…登山ルートで…■



3合目のススキ



途中の絶景



8合目付近の急坂



ヤッター！登頂



マユミの実と琵琶湖

伊吹山登山
成功へのカギ

☑1100mの高低差

私が主宰するフリースクールでは、月2回、湖や山や川を舞台に「自然教室」を開催しています。今回は、昨年3人の小学3年生が挑んだ自然教室「伊吹山登山」の記録をもとに、読者の皆さんを伊吹山山頂へと誘いたいと思います。時期は、気候的に登り

3人の小学3年生が挑んだ自然教室の記録から

やすい10月を選びました。登山口(220m)から1377mの山頂往復は約12km、1100mもの高低差、山慣れた登山者でもハードな行程です。

☑山頂でハイタッチ

3人とも本格的な登山は初めてです。登山口から1合目間で子どもたちの「登山力」を見極め、ペースを作らなければなりません。昨日まで朝起きるか不安だったT君の体調と自然教室初参加のN君にも目配りしながら登っていきます。まず上り始めはゆっく

りとりリズムを整えます。休憩は短めに、事実上の中間点3合目(720m)をめざします。この上りで体力を使い果たすと登頂は困難です。樹林帯やススキの群落をときに歌いながら、ときに歯をくいしばって、子どもたちは懸命に歩きます。3合目でしっかりと休憩し、食べ物も口にします。熱中症と痙攣を起こさない

☑成し遂げた満足感

下山は、文字通り「ひざが笑う」を体験した子どもたち。転倒には細心の注意を払いながら15時30分、登山口に着いたときはヘトヘトな状況。しかしそれよりも、目標を成し遂げた満足感がどの顔からも滲み出ていました。読者の皆さんも、ぜひチャレンジしてください。

伊吹山
やまはな便り

6



伊吹山ネイチャーネット
ワーク事務局長

山下 吉和